



省エネルギー技術の費用対効果

- 平成25～27年度の省エネルギー型ロジスティクス等推進事業(省エネ技術の実証事業)の実証結果より、費用対効果を分析。
- その結果、省エネ投資回収年は、いずれも船の耐用年数(14～15年)を下回っており、費用対効果が高い。

※ ()は、C重油価格40,000円/klを仮定

事業者	船種	総トン数	船速 【ノット】	省エネ設備・機器等	省エネ投資額 (省エネ機器と 通常の機器の 価格差) 【百万円】	省エネ率	年間燃料 削減量 【C重油kl】	年間燃料費 削減額 【百万円】 C重油価格 60,000円/kl を仮定※	省エネ投資 回収年 【年】 C重油価格 60,000円/kl を仮定※
新日本海フェリー	フェリー	16,810	30.5	空気潤滑装置(改造)	150	1.8%	476	29 (19)	5 (8)
近海郵船	RORO船	11,500	23.0	省エネ船型、バルブ付リアクション舵、高効率プロペラ、電子制御低速主機関、低摩擦船底塗料	600	31.9%	3,336	200 (133)	3 (5)
向島ドック	コンテナ船	749	13.5	省エネ船型、大直径低回転プロペラ2基システム、電気推進システム	130	13.6%	241	14 (10)	9 (14)